

2021年12月23日

各位

会社名 株式会社エクサウィザーズ
 代表者名 代表取締役社長 石山 洸
 (コード番号：4259 東証マザーズ)
 問合せ先 コーポレート統括部長 石野 悟史
 (Tel: 03-6453-0510)

東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日、2021年12月23日に東京証券取引所マザーズに上場いたしました。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、2022年3月期（2021年4月1日から2022年3月31日）における当社グループの連結業績予想は、次のとおりであります。また、最近の決算情報等につきましては別添のとおりであります。

【連結】

(単位：千円、%)

	2022年3月期 (予想)			2022年3月期 第2四半期累計期間 (実績)		2021年3月期 (実績)	
		対売上高 比率	対前期 増減率		対売上高 比率		対売上高 比率
売上高	4,738,000	100.0	181.3	1,971,545	100.0	2,612,944	100.0
売上総利益	2,819,000	59.5	169.7	1,187,981	60.3	1,661,600	63.6
営業利益	△180,000	—	—	△329,190	—	△508,339	—
経常利益	△75,000	—	—	△336,246	—	△451,345	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	△95,000	—	—	△388,189	—	△592,688	—
一株当たり 当期純利益	△1.24円			△5.15円		△8.04円	
一株当たり 配当金	0.00円			0.00円		0.00円	

- (注) 1. 2021年3月期(実績)及び2022年3月期第2四半期累計期間(実績)の1株当たり当期(四半期)純利益は期中平均発行済株式数により算出しています。
2. 2022年3月期(予想)の1株当たり当期純利益は、公募株式数(株)を含めた予定期中平均発行株式数により算出しています。
3. 当社では、2021年8月28日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っています。上記では、

2021年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり当期（四半期）純利益金額を算出しています。

【当社グループの戦略】

（事業環境）

当社が事業を展開するAI関連市場は、実産業へ適用可能な技術の進展及び実装可能な人材の拡充といった供給側の拡大、及び需要側である企業における労働人口の減少に伴う業務の求人倍率の上昇や、新型コロナウイルス感染症等によるデジタル化の必要性の高まりなどから、急速に拡大を続けています。

（当社グループの事業戦略）

当社は現在、AI・DXプラットフォームである「exaBase」の強化を戦略的に推進しています。「exaBase」にはこれまで当社が独自に開発してきたAIアルゴリズム機能及び様々な業界や業務に関する知見やデータ、アルゴリズム実装・運用ノウハウが集積しています。同プラットフォームの機能を一層拡充し確固たる事業基盤とすることで、類似案件へのサービス提供が高品質かつ効率的となり、一方でより困難な社会課題・産業課題の取り組みや新たな産業分野への領域拡大が促進されます。

セグメント別では、AIプラットフォーム事業では人員体制の強化や、エクスウェア株式会社（以下、エクスウェア）の連結子会社を通じた業務システムの開発体制や社会実装力の強化により、顧客事業へのインパクトを創出するような案件、大型の案件を増加させ、既存顧客における単価向上及び新規顧客の獲得に取り組みます。

AIプロダクト事業では、DX推進に寄与するプロダクトとして「exaBase DX アセスメント&ラーニング」、「exaBase 予測・分析」を中心にマーケティング等の拡販体制を引き続き強化しつつ、「exaBase 企業検索」をはじめとする新規プロダクトについて市場性を検証しながら開発を進めています。またヘルスケア系のプロダクトである「CareWiz トルト」「CareWiz ハナスト」については、介護サービス・施設の業務効率化や介護品質の向上を実現すべく展開を進めており、提携する事業パートナー企業等と協業しながら新規導入顧客の獲得に努めています。

【2022年3月期業績予想の前提条件】

（連結業績予想）

当期における連結業績予想は以下のとおりです

（単位：千円）

	売上高	売上総利益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益
2022年3月期 （予想）	4,738,000	2,819,000	△180,000	△75,000	△95,000
2021年3月期 （実績）	2,612,944	1,661,600	△508,339	△451,345	△592,688

（売上高）

AI・DX関連への各産業・企業の戦略的投資は引き続き旺盛であり、この需要増加を当社グループが取り込むことでAIプラットフォーム事業、AIプロダクト事業ともに増収を想定しています。当期の売上高は4,738,000千円（前年同期比181.3%増）となる見込みです。

なお、当社の事業の一部は企業向けに事業転換・事業創出を支援するものであることから、多くの企業が新年度を迎える4月からのサービス導入に向けて、3月末までに契約を締結する事例が多く見られます。このため当社グループの売上高は、

当社グループの第4四半期（1月から3月まで）、特に3月に偏在する傾向があります。

セグメント別の売上高の見通しとして具体的な数値は示していませんが、両セグメントともに増収することで、2021年3月期実績の売上高割合に近い比率に着地するものと想定しています。

セグメント別での当期売上高予想の前提は以下の通りです。

- AIプラットフォーム事業
 - 法人・自治体を主要な顧客として、その組織全体のデジタル・AI化を推進し、ひいては産業・社会課題の解決を図ることを目的に、戦略コンサルティングによる課題定義、AIアルゴリズム開発、実装及び運用を行う事業です
 - 当事業は顧客からの引き合いが当社の人員数を上回っていることから、①既存顧客による売上の積み上げ及び2021年3月期における新規顧客売上高 ②当事業における現実的な採用計画及び生産性 この両面から計画を策定しています。
 - また、2021年5月より、完全子会社化したエクスウェアの業績を取り込むことで、838百万円の売上増を見込んでいます。
- AIプロダクト事業
 - 広範な顧客向けに、最小限の追加調整で即座に業務で活用できるようパッケージ化したAIソフトウェアを提供する事業です
 - 当事業の当期売上高の計画のうち、「exaBase」系のプロダクトである「exaBase DX アセスメント&ラーニング」、およびヘルスケア系のプロダクトである「CareWiz トルト」の2プロダクトの売上高が大きな割合を占めます。
 - 「exaBase DX アセスメント&ラーニング」については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響もあり、加速するDX関連市場の発展に伴い引き合いも強く、2021年3月期においても期中で大きく売上が伸長しており、引き続きサービス拡充をしていくことで売上を増加させることができると考えています。
 - 「CareWiz トルト」については、サブスクリプション形式で毎月一定の売上が計上されるビジネスモデルとなっており、2021年7月時点で導入済の事業所から一定程度の売上計上が確約されています。それに加え、2021年6月より国内トップの福祉用具レンタル・販売事業者である株式会社ヤマシタとジョイントベンチャーを立ち上げ、同社の営業網に乗せてサービスを販売していくことで、大きく成長することが可能と考えています。
 - 上記で個別に言及した2種以外のプロダクトは売上規模が小さいですが、個別企業からサービス開発費用を受領しサービス展開するものや、利用料を年額で一括受領するもの等であり、一定の達成確度があると考えています。

（売上原価、売上総利益）

主に人員計画と費用計画をもとに、減価償却費など原価要素別に分類して計画を策定しています。当期の売上総利益は2,819,000千円（前年同期比169.7%増）となる見込みです。

主な費目の前提は以下の通りです。

- 人件費
 - 売上原価となる人件費は、各案件のサービス提供に直接関与した人員に係る人件費について、案件での稼働割合に応じて按分した金額となります。人員計画は売上計画におけるサービスの種別・外注の内

容ごとに分類し策定しています。

- 今期の見通しは期中のコンサルタント及びエンジニアの採用数見込みを前提に計画しています。今期はエクスウェアを子会社化したことにより同社人員分を取り込んだこと等により、売上高に対する人件費の割合が一時的に高まる見込みです。
- 減価償却費
主に AI プロダクト事業において、人員計画等をもとに月次でのソフトウェア開発支出を算定し、その残高を償却期間である 36 ヶ月で割り戻すことで算定しています

(販売費及び一般管理費、営業利益)

主に人員計画と費用計画をもとに、費目別に算定し計画を策定しています。当期の営業損失は 180,000 千円（前年同期は 508,339 千円の営業損失）となる見込みです。

主な費目の前提は以下のとおりです

- 人件費
AI プロダクト事業等における営業体制のサポート要員、及びコーポレート・人事統括部におけるガバナンス強化、採用強化等のための増員分を見込んでいます。
- 広告宣伝費
サービスの種別及びその成長率を鑑み設定しています。AI プロダクト事業の「exaBase DX アセスメント＆ラーニング」、「CareWiz ハナスト」等を中心に一定の支出を見込んでいます。
- その他の経費
主に過去のトレンドから経費比率を算定し、売上高を乗じることで算定しています。

(営業外収益/費用、経常利益)

経営動向をモニタリングする中で、発生蓋然性の高い項目について折り込み計画を策定しています。当期の経常損失は 75,000 千円（前年同期は 451,345 千円の経常損失）となる見込みです。

主な費目の前提は以下のとおりです

- 営業外収益
既に採択済である国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、経済産業省による補助金 112 百万円を見込んでいます。
- 営業外費用
中国子会社における為替差損、現在の借入金に対する支払利息等で 7 百万円を見込んでいます。

(特別利益・特別損失、法人税等、親会社株主に帰属する当期純利益)

当期の親会社株主に帰属する当期純損失は 95,000 千円（前年同期は 592,688 千円の損失）となる見込みです。

- 特別利益・特別損失
経営動向をモニタリングする中で、発生蓋然性の高い項目について前提に折り込み計画を策定しています。当期においては中国子会社の清算に伴う特別損失を 32 百万円見込んでいます。

【将来に関する記述等についてのご注意】

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(以 上)



2022年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年12月23日

上場会社名 株式会社エクサウィザーズ 上場取引所 東
 コード番号 4259 URL <https://exawizards.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石山 洸
 問合せ先責任者 (役職名) コーポレート統括部長 (氏名) 石野 悟史 TEL 03 (6453) 0510
 四半期報告書提出予定日 - 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第2四半期の連結業績（2021年4月1日～2021年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	1,971	—	△329	—	△336	—	△388	—
2021年3月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2022年3月期第2四半期 △397百万円 (—%) 2021年3月期第2四半期 一百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	△5.15	—
2021年3月期第2四半期	—	—

(注) 1. 当社は、2021年3月期第2四半期については四半期連結財務諸表を作成していないため、2021年3月期第2四半期の数値及び2022年3月期第2四半期の対前年増減率については記載しておりません。
 2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であり期中平均株価が把握できないため、また、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。
 3. 当社は、2021年8月28日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っているため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純損失を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第2四半期	3,622	2,066	54.95
2021年3月期	3,686	2,383	64.64

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 1,990百万円 2021年3月期 2,382百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年3月期	—	0.00	—	—	—
2022年3月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年3月期の連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,738	81.3	△180	—	△75	—	△95	—	△1.24

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
 新規 3社 （社名）エクスウェア株式会社、株式会社VisionWiz、株式会社エクサホームケア
 除外 1社 （社名）青島愛克薩老齡服務科技有限公司

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年3月期2Q	75,308,000株	2021年3月期	75,308,000株
② 期末自己株式数	2022年3月期2Q	－株	2021年3月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年3月期2Q	75,308,000株	2021年3月期2Q	73,613,000株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	4
(1) 財政状態及び経営成績に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(会計方針の変更)	12
(セグメント情報等)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 財政状態及び経営成績に関する説明

当社グループは、「AIを用いた社会課題解決を通じて、幸せな社会を実現する」とのミッションの下、AIプラットフォーム事業においては、顧客課題解決を通じて、様々な業界の産業・社会課題を発見し、その革新を実現し続けることをめざして事業を推進しています。またAIプロダクト事業においては、広範な顧客向けに、最小限の追加調整で即座に業務で活用可能なAIソフトウェアを提供し、社会課題を解決することをめざして事業を推進しています。

当社グループが事業を展開するデジタル・トランスフォーメーション（DX）及びAI活用に係る領域では、DXの推進にむけての企業投資意欲が高まっており、AIプラットフォーム事業、AIプロダクト事業の双方で顧客企業から旺盛な新規受注が期待できる良好な事業環境が継続しています。

(経営成績)

売上高

当第2四半期連結累計期間における売上高は1,971,545千円となりました。AIを用いたDX支援やAIプロジェクトによるイノベーション創出案件を多数の大手企業と取り組んだことにより、前年度からの継続顧客を中心に顧客単価が向上しました。また、子会社化したエクスウェア株式会社（以下、エクスウェア）の売上高を2021年5月より取り込んでいます。

売上原価、売上総利益

当第2四半期連結累計期間における売上原価は783,564千円となりました。主な要素は人件費等であり、またエクスウェア子会社化により同社の人件費を取り込んでいます。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上総利益は1,187,981千円、売上総利益率は60.3%となりました。

販売費及び一般管理費、営業損益

当第2四半期連結累計期間の販売費及び一般管理費は1,517,171千円となりました。主な要素は人件費等、業務委託費、研究開発費となります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の営業損失は329,190千円となりました。

営業外損益、経常損益

当第2四半期連結累計期間の営業外収益は2,432千円となりました。主な要素は助成金収入となります。また、営業外費用は9,488千円となりました。主な要素は支払利息及び為替差損となります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の経常損失は336,246千円となりました。

特別損益、親会社株主に帰属する四半期純損益

当第2四半期連結累計期間の税金等調整前四半期純損失は382,063千円となりました。主な要素は中国子会社の株式持分を譲渡し業務終了することに伴う関連費用として計上した、関係会社整理損39,436千円等となります。

また、当第2四半期連結累計期間の親会社株主に帰属する四半期純損失は、法人税等の合計として11,854千円計上したことにより、388,189千円となりました。

(セグメント業績)

AIプラットフォーム事業

当第2四半期連結累計期間においては、機械学習・深層学習及び統計学などを用いた画像・データ解析技術等を活用したAIプロジェクトによるイノベーション創出を多数の大手企業と取り組みました。AIを用いたDX支援に関する企業の強いニーズも後押しとなり、前年度からの継続顧客を中心に顧客単価が向上しました。

この結果、売上高は1,735,977千円、売上総利益は1,129,354千円、売上総利益率は65.1%、営業利益は209,987千円、売上高に占める長期継続顧客売上（注1）の比率は61.8%となりました。

（注1）弊社が4四半期以上連続で契約を締結している顧客からの継続的な収益

AIプロダクト事業

当第2四半期連結累計期間においては、既存プロダクトの販売拡大に加え、AIプラットフォーム事業によって得られた知見をもとに、新たなサービス開発にも取り組んでまいりました。

DX AIプロダクト群では、企業のDX人材の発掘・育成のための「exaBase DXアセスメント&ラーニング」、データ活用・分析のための「exaBase 予測・分析」を中心に導入企業数が増加しました。

ソーシャルAIプロダクト群では、「CareWiz トルト(旧: CareWiz 撮ると記録)」「CareWiz ハナスト(旧: CareWiz 話すと記録)」が、それぞれのパートナー企業との協業により、販売拡大が進みました。

一方で、組織拡大に伴う人員増加、プロダクトの開発に係る先行投資に伴い人件費等が増加しました。

この結果、売上高は235,568千円、売上総利益は58,627千円、売上総利益率は24.9%、営業損失は539,177千円となりました。

(当四半期における当社の展開)

全社

- AIプラットフォーム「exaBase」への各種提供サービスの統合を実施しています。当社が提供してきた企業向けのAI・DXサービスおよび様々な業界・業務に関する豊富な技術アセットを「exaBase」ブランドのもとに集約し、AI・DXに関わる幅広い機能・サービスを顧客ニーズに応じて組み合わせ提供することで、最短距離での成果創出をサポートする体制を確立しています。

参考: <https://exawizards.com/archives/17082>

- 今年で3回目となる「LinkedIn Top Startups」において、当社は3年連続でランクインしました。同ランキングはLinkedInの実データに基づき、優秀な人材の興味を引き実際に獲得できたスタートアップ企業を示すものです。

AIプラットフォーム事業

- 住友生命保険相互会社とWell-being Tech領域での業務提携を行いました。当社はこれまで数多くの企業にAI実装を進めた実績を活かし、住友生命のデータ分析・AI活用のパートナーとして、住友生命と様々なWell-beingサービスの共創に取り組んでいきます。業務提携の第一弾として、両社はメンタルヘルス領域における新たなAIサービス開発を進めます。

参考: <https://exawizards.com/archives/16947>

AIプロダクト事業

- 介護記録アプリ「CareWiz ハナスト」が、中小企業基盤整備機構の提供するIT導入補助金2021、及び厚生労働省の提供する地域医療介護総合確保基金(介護ロボット導入支援事業)の対象となるITツールとして採択されました。これにより「CareWiz ハナスト」導入およびその通信環境整備に係る費用が最大750万円まで補助されることとなり、介護サービス事業所・施設での導入負担が軽減されます。

参考: <https://exawizards.com/archives/17150>

(財政状態)

資産

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は3,622,425千円となり、前連結会計年度末に比べ63,755千円減少いたしました。これは主に、エクスウェアの新規連結に伴いのれんの増加238,203千円及び保険積立金の増加95,090千円があった一方で、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上等に伴い現金及び預金が544,695千円減少したことによるものであります。

負債

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は1,555,711千円となり、前連結会計年度末に比べ252,824千円増加いたしました。これは主に、人件費増加に伴う未払費用の増加60,547千円、エクスウェアの新規連結に伴う長期借入金等の有利子負債の増加49,886千円及び退職給付に係る負債の増加48,152千円、本社移転等に伴う資産除去債務の増加39,655千円によるものであります。

純資産

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は2,066,714千円となり、前連結会計年度末に比べ316,579千円減少いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により利益剰余金が388,189千円減少したことによるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間の現金及び現金同等物は、1,793,002千円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次の通りであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、120,195千円の支出となりました。これは主に、税金等調整前当期純損失382,063千円の計上があった他、非資金支出である減価償却費104,876千円及びのれん償却額21,654千円並びに助成金の受取による収入69,308千円があったためであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、473,111千円の支出となりました。これは主に、無形固定資産の取得による支出174,501千円及びエクスウェアの新規連結に伴い子会社株式の取得による支出（子会社が保有する現金及び預金を控除したもの）230,444千円があったためであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、49,501千円の収入となりました。これは主に、連結子会社の株式会社エクサホームケアの新設に伴う非支配株主からの払込みによる収入78,207千円があった他、長期借入金の返済による支出28,898千円があったためであります。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当資料に記載した予想数値は、現時点での入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後様々要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,337,698	1,793,002
売掛金	603,525	644,684
その他	140,579	60,877
流動資産合計	3,081,804	2,498,565
固定資産		
有形固定資産	71,194	146,798
無形固定資産		
のれん	—	238,203
ソフトウェア	392,050	490,062
その他	—	151
無形固定資産合計	392,050	728,418
投資その他の資産	141,131	248,643
固定資産合計	604,376	1,123,860
資産合計	3,686,180	3,622,425
負債の部		
流動負債		
短期借入金	500,000	500,000
1年内償還予定の社債	—	6,000
1年内返済予定の長期借入金	15,000	33,086
未払金	185,279	198,536
未払費用	177,896	238,444
未払法人税等	6,187	19,896
その他	114,317	142,395
流動負債合計	998,681	1,138,358
固定負債		
社債	—	3,000
長期借入金	300,000	322,800
退職給付に係る負債	—	48,152
資産除去債務	—	39,655
その他	4,204	3,744
固定負債合計	304,204	417,352
負債合計	1,302,886	1,555,711

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	2,885,349	2,885,349
利益剰余金	△ 606,716	△ 994,905
株主資本合計	2,378,633	1,990,444
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	4,061	—
その他の包括利益累計額合計	4,061	—
新株予約権	599	3,791
非支配株主持分	—	72,478
純資産合計	2,383,294	2,066,714
負債純資産合計	3,686,180	3,622,425

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
売上高	1,971,545
売上原価	783,564
売上総利益	1,187,981
販売費及び一般管理費	△1,517,171
営業損失(△)	△ 329,190
営業外収益	
受取利息及び配当金	28
助成金収入	1,845
その他	559
営業外収益合計	2,432
営業外費用	
支払利息	3,422
為替差損	3,883
その他	2,182
営業外費用合計	9,488
経常損失(△)	△ 336,246
特別損失	
固定資産除却損	2,650
減損損失	3,731
関係会社整理損	39,436
特別損失合計	45,817
税金等調整前四半期純損失(△)	△ 382,063
法人税、住民税及び事業税	6,339
法人税等調整額	5,514
法人税等合計	11,854
四半期純損失(△)	△ 393,918
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△ 5,728
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△ 388,189

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純損失(△)	△393,918
その他の包括利益	
為替換算調整勘定	△ 4,061
その他の包括利益合計	△ 4,061
四半期包括利益	△ 397,979
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	△ 392,250
非支配株主に係る四半期包括利益	△ 5,728

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失(△)	△ 382,063
減価償却費	104,876
のれん償却額	21,654
固定資産除却損	2,650
減損損失	3,731
受取利息及び受取配当金	△ 28
支払利息	3,422
為替差損益(△は益)	3,669
助成金収入	△ 1,845
売上債権の増減額(△は増加)	△ 11,715
その他の流動資産の増減額(△は増加)	3,671
未払金及び未払費用の増減額(△は減少)	63,209
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△ 9,318
その他の流動負債の増減額(△は減少)	9,334
その他	933
小計	△ 187,816
利息及び配当金の受取額	28
利息の支払額	△ 3,408
助成金の受取額	69,308
法人税等の支払額	△ 6,187
法人税等の還付額	7,878
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 120,195
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△ 60,138
有形固定資産の売却による収入	3,046
無形固定資産の取得による支出	△ 174,501
関係会社株式の取得による支出	△ 32,634
連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△ 230,444
連結範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	△ 23,595
保険積立金の積立による支出	△ 11,913
保険積立金の払戻による収入	4,588
敷金及び保証金の差入による支出	△ 67,526
敷金及び保証金の回収による収入	120,009
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 473,111
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	△ 28,898
短期借入金の返済による支出	△ 3,000
長期借入れによる収入	78,207
長期借入金の返済による支出	3,192
財務活動によるキャッシュ・フロー	49,501
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 890
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 544,695
現金及び現金同等物の期首残高	2,337,698
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,793,002

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2018年3月30日公表分。以下「収益認識会計基準」という。)及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針 第30号 2018年3月30日公表分)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、当社グループは、請負契約等について、契約で定めた検収等が完了した時点で収益を認識しておりますが、一定の期間にわたり充足される履行義務は、履行義務の充足に係る進捗率を見積り、当該進捗度に基づき収益を一定の期間にわたり認識しております。なお、履行義務の充足に係る進捗度の見積りの方法は、見積総工数に対する発生工数の割合(インプット法)により算出しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針の遡及適用していません。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、会計処理を行い、その累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の期首の利益剰余金に与える影響はありません。また、当第2四半期連結累計期間の損益に与える重要な影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	AIプラットフォーム	AIプロダクト	計
売上高			
顧客との契約から生じる収益	1,735,977	235,568	1,971,545
外部顧客への売上高	1,735,977	235,568	1,971,545
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	1,735,977	235,568	1,971,545
セグメント利益又は損失(△)	209,987	△539,177	△329,190

(注) セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

AIプラットフォームセグメントにおいて、第1四半期連結会計期間に、エクスウェア株式会社の株式を取得し、連結の範囲に含めたことにより、のれんが発生しております。当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間において238,203千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。